

グラフで見る東海経済 (2020年8月)

2020年8月28日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ~新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる

【今月のポイント】

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、足下の指標は総じて厳しい水準にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる。
- 生産は輸送機械が前月比で増加となり、鉱工業全体でも増加に転じた。先行きは、自動車生産の回復とともに持ち直しが見込まれる。
- 雇用は失業率が上昇、就業者数が減少。
- 個人消費では、巣ごもり消費でスーパー、ドラッグストア、家電の増加が続く。小売販売全体でも2ヶ月連続で前年比で増加。
- 7月の倒産件数は、3ヶ月ぶりに増加。

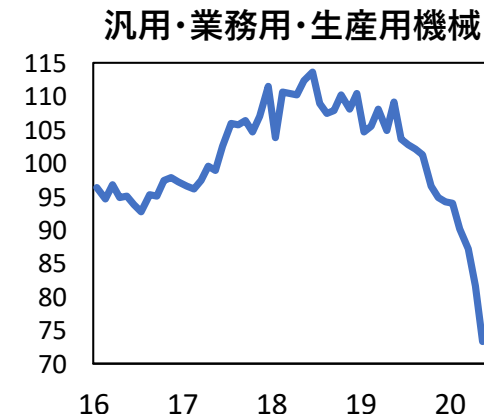
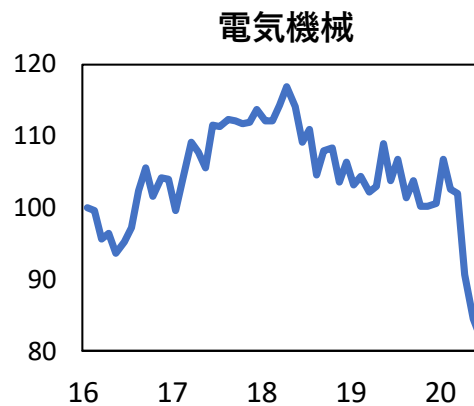
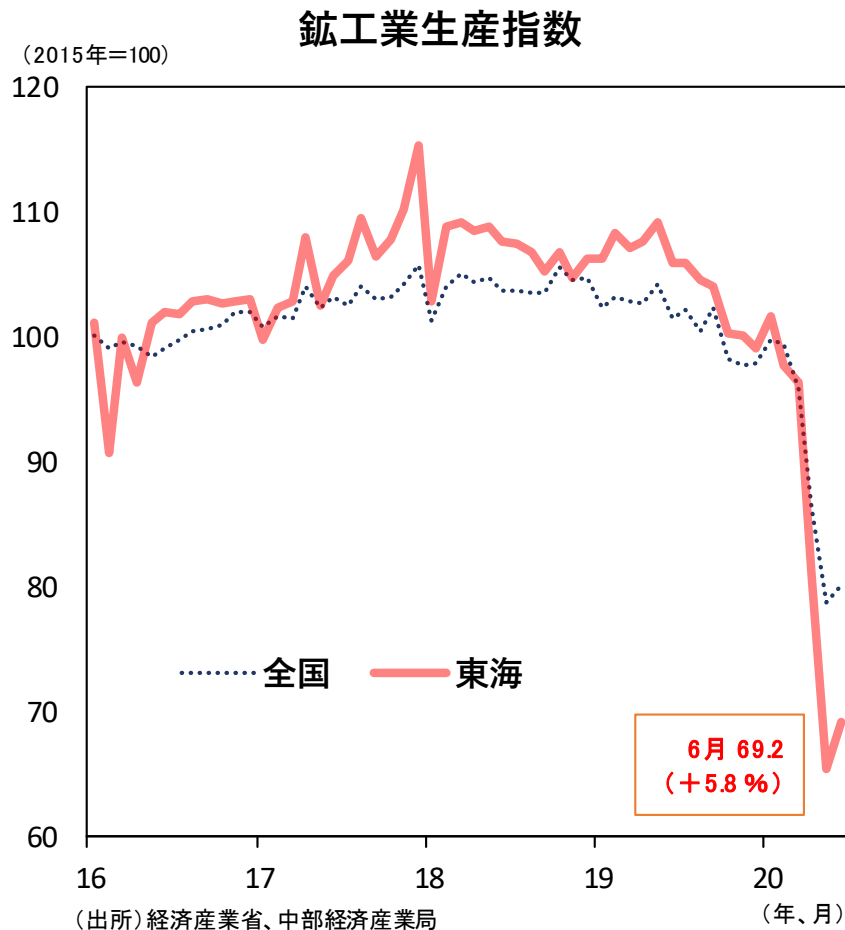
| 項目 | 現状 |
|------|--|
| 景気全般 | 新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる(↑) |
| 生産 | 持ち直しの動きがみられる(↑) |
| 輸出 | 減少している |
| 設備投資 | 弱含んでいる |
| 雇用 | 弱い動きとなっている(↓) |
| 賃金 | 弱含んでいる |
| 個人消費 | 持ち直しの動きがみられる(↑) |
| 住宅投資 | 弱含んでいる |
| 公共投資 | 横ばい圏で推移している |

(注)景気全般は、持ち直しの動きが広がってきたことから上方修正

生産

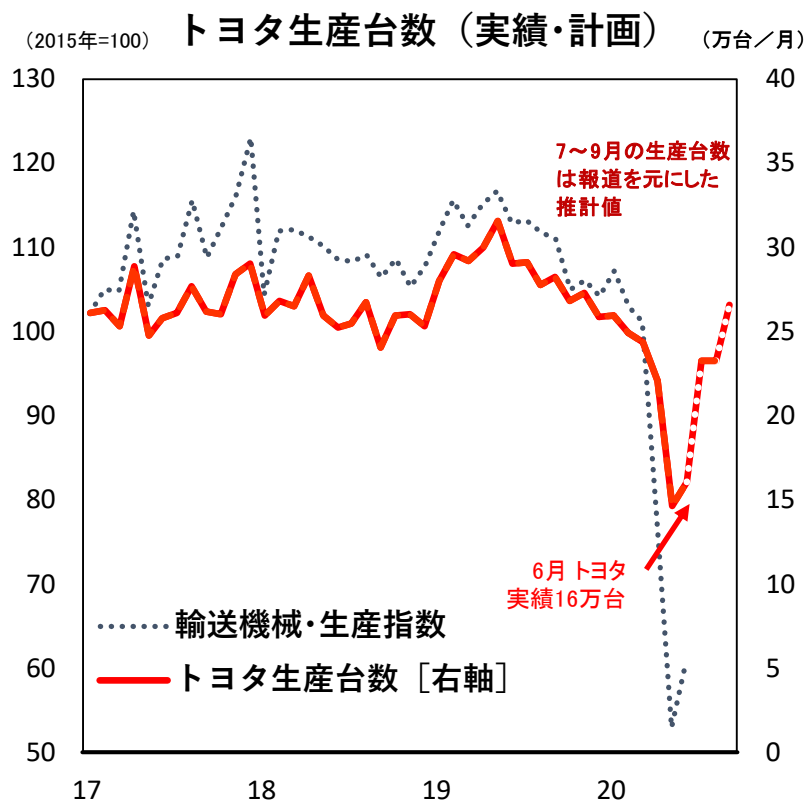
6月の鉱工業生産(東海)は前月比+5.8%と、5ヶ月ぶりに増加した。

ウェイトの5割を占める輸送機械をはじめ、電子部品デバイス、汎用機械等も増加に転じた。

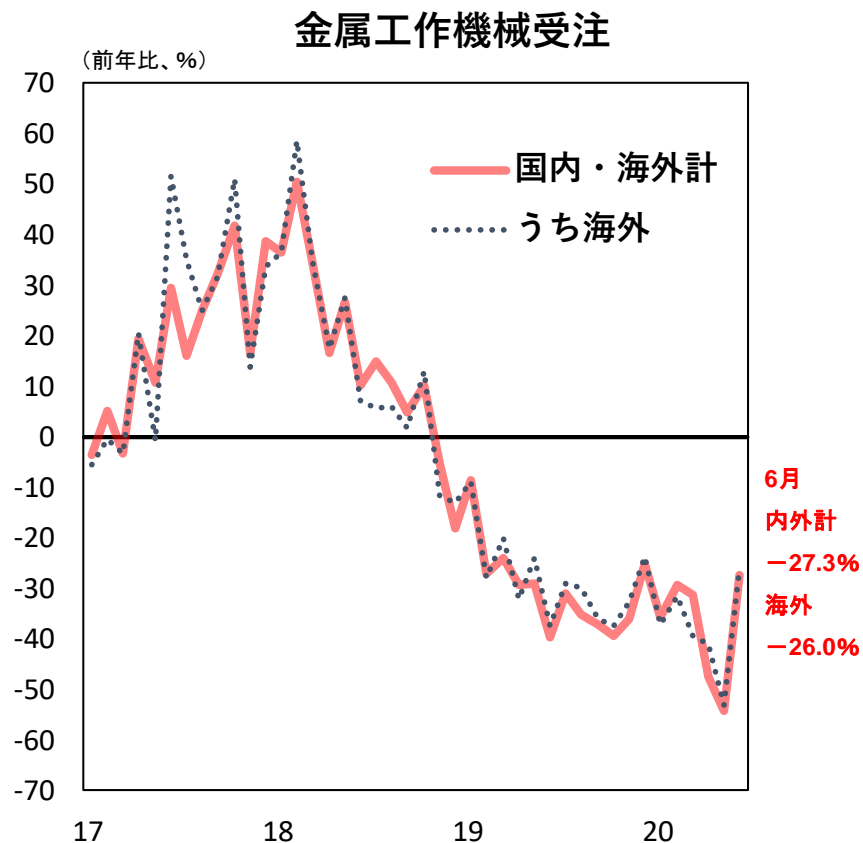


生産（金属工作機械、トヨタ生産計画）

6月のトヨタ生産台数（弊社季節調整値）は16万台と前月から増加した。先行きは5月を底に回復の計画。
 金属工作機械受注は、前年比-27.3%と大幅減が続いているが減少幅は縮小した。欧米向けが大幅減となる一方、中国向けが前年比+4.8%と増加に転じた。



(注)トヨタ生産台数の季節調整は当社、輸送機械・生産指数は東海3県
 (出所)中部経済新聞、中部産業局「軀工業生産指数」

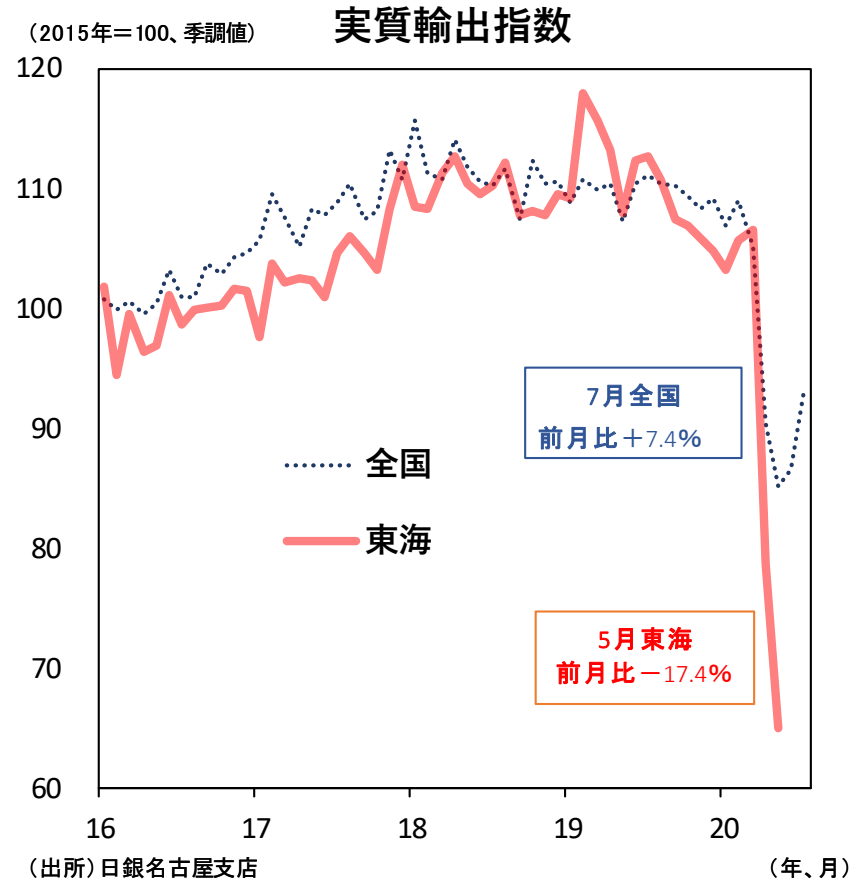
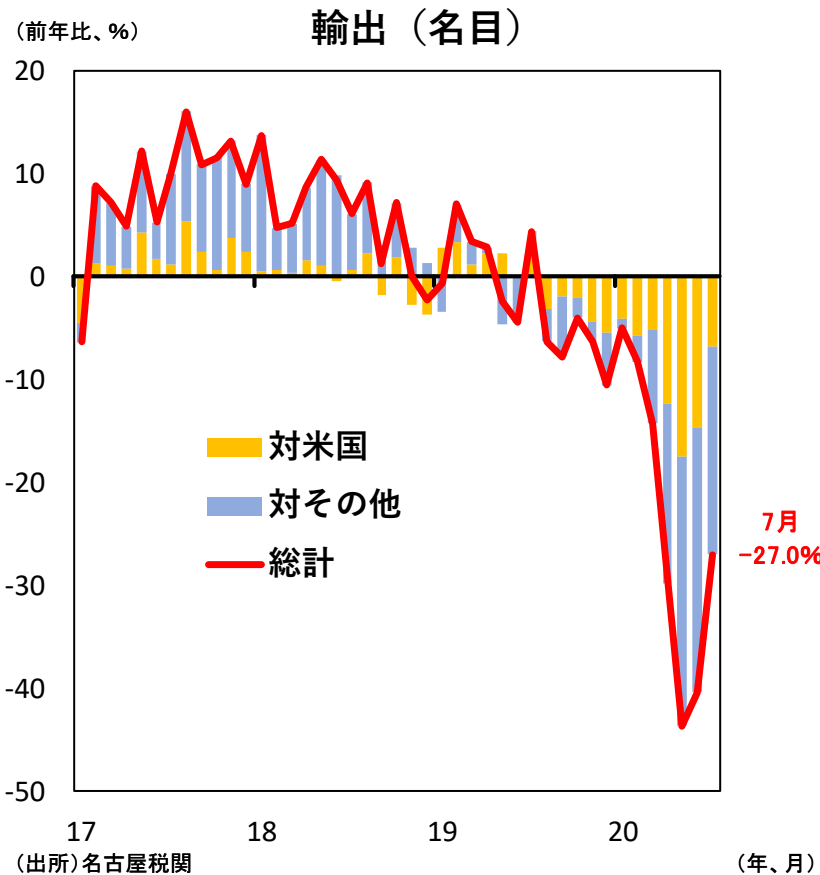


(出所)中部経済産業局「金属工作機械受注」

輸出

7月の名目輸出額は前年比-27.0%と、大幅減が続くも底打ちの兆しがみえる。中国向けが3ヶ月連続で増加(同+11.2%)したほか、米国向け(同-23.4%)など主要地域向の減少幅が縮小した。業種別では、自動車(同-33.4%)のマイナス幅が縮小した。

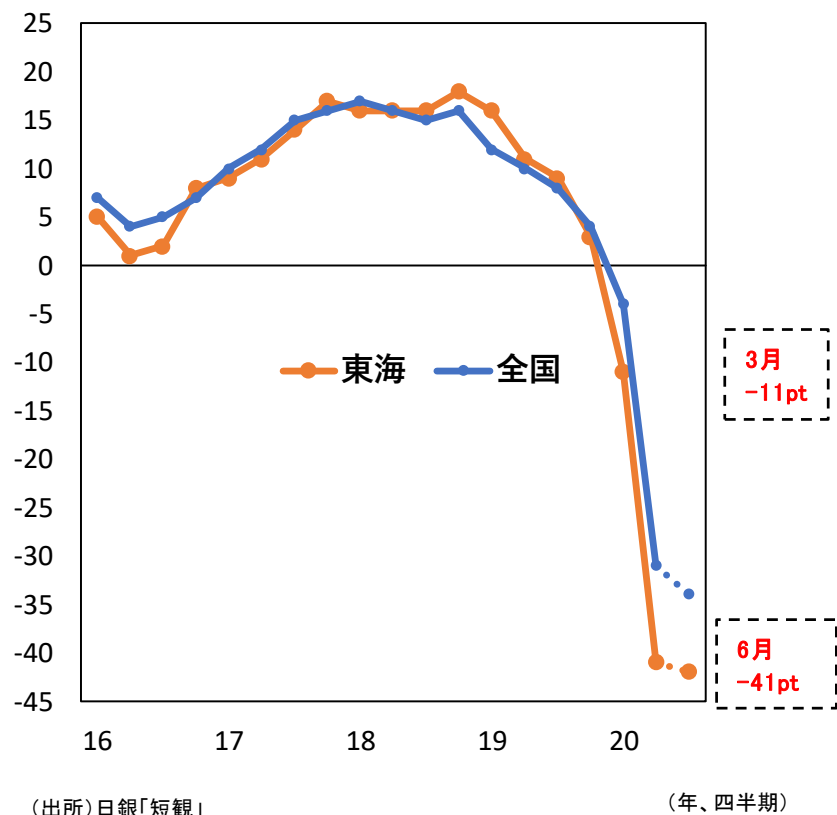
5月の実質輸出指数(季節調整値)は前月比-17.4%と大幅減(6月分は9月公表の予定)。



企業景況感(日銀短観) ※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/1公表予定

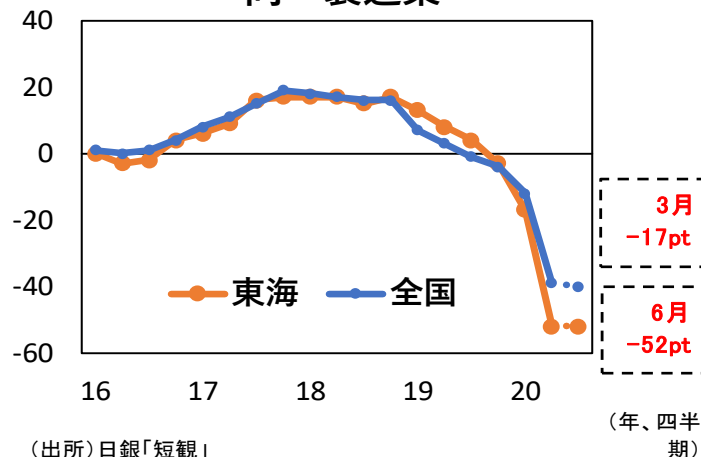
日銀短観6月の業況判断DIは全産業で-41ptと大幅に悪化。製造業は-52pt、非製造業は-29pt。先行き(9月)、製造業は横ばいにとどまるが、非製造業ではもう一段の悪化が見込まれている。

短観 業況判断DI「全産業」

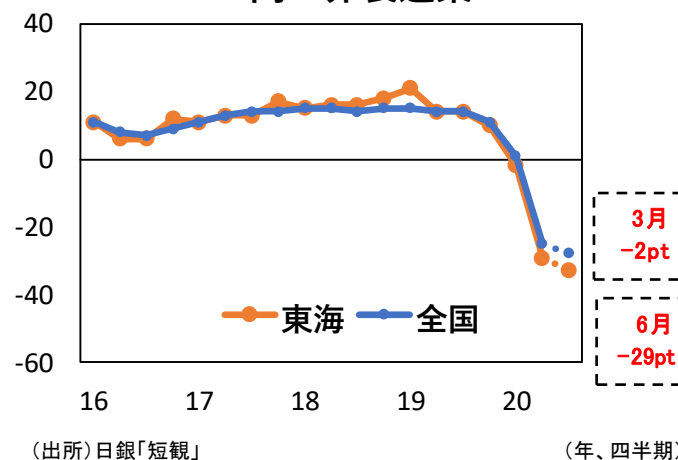


(注) 足元の点線はいずれも先行きの見通し

同 製造業

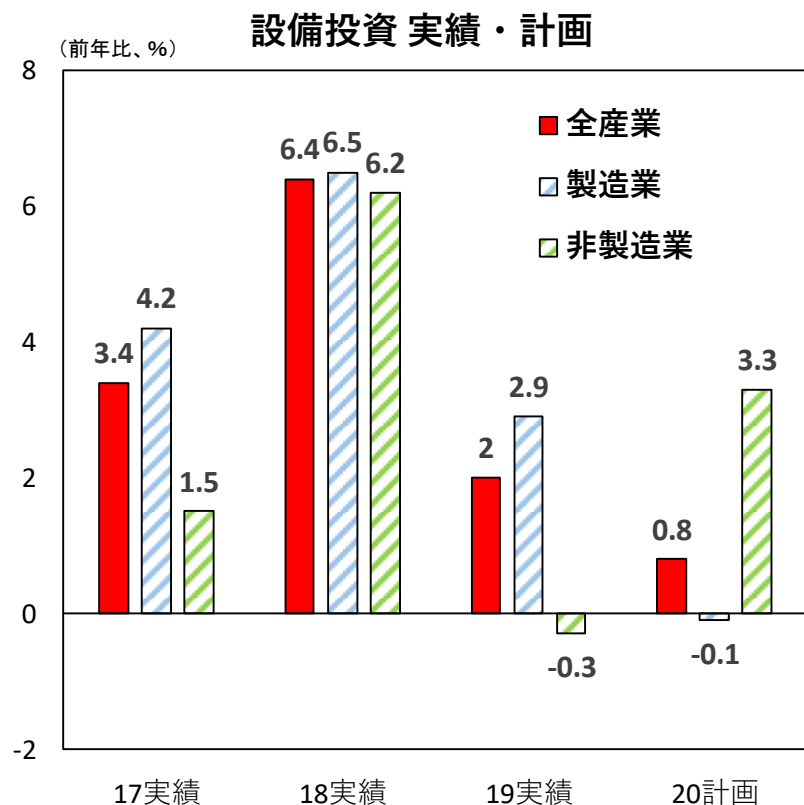


同 非製造業



設備投資 ※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/1公表予定

日銀短観6月調査によると、20年度の設備投資計画は、非製造業が前年比+3.3%と増加を見込む一方、製造業は同-0.1%と低調、全産業では同+0.8%と小幅増加にとどまる計画となっている。



(出所)日銀名古屋支店「短観」

(年度)

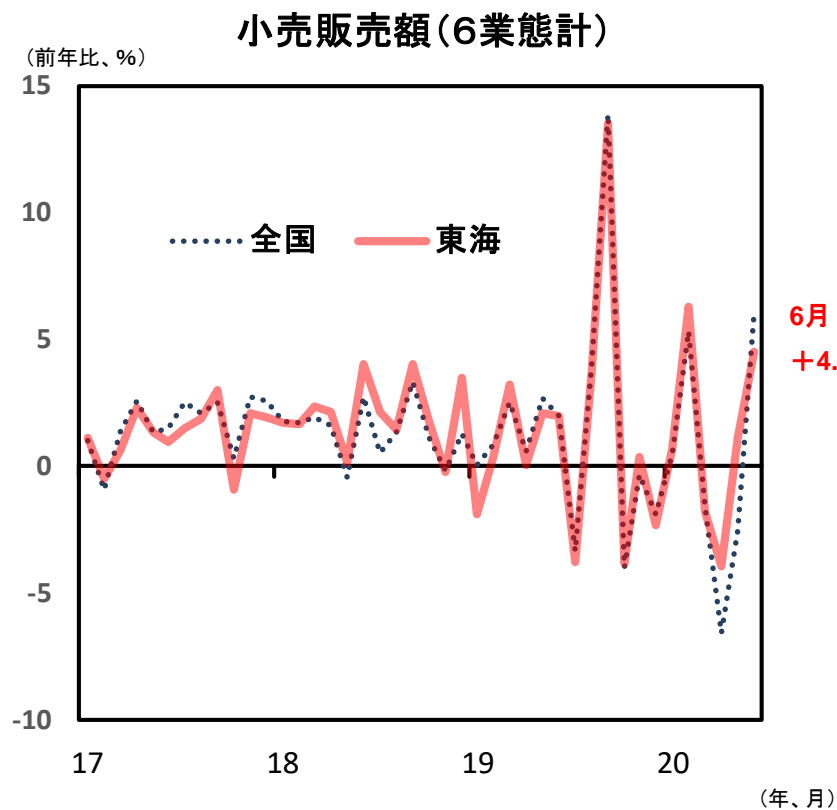
設備投資額 (前年比%)

| | 19年度 実績 | 20年度 計画 | |
|------|------------|---------|------------|
| | | 今回 | 3月調査時 [差異] |
| 全産業 | 2.0 | 0.8 | -0.4 1.2 |
| 製造業 | 2.9 | -0.1 | -0.5 0.4 |
| 非製造業 | -0.3 | 3.3 | -0.4 3.7 |

個人消費(小売売上、自動車販売)

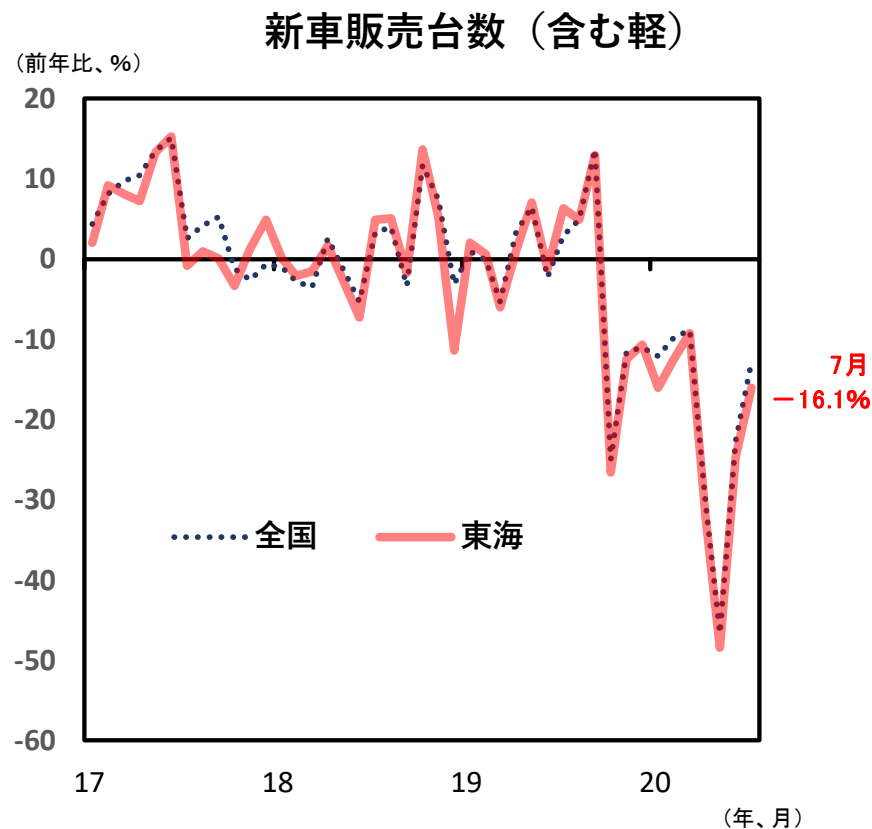
6月の小売販売額は前年比+4.5%と2ヶ月連続で増加した。巣ごもり消費でスーパー、ドラッグストア、家電、ホームセンターが増加した。定額給付金支給の影響も考えられる。

7月の新車販売は前年比でのマイナスが続くが、減少幅は縮小。



(出所)商業販売動態統計

(注)百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

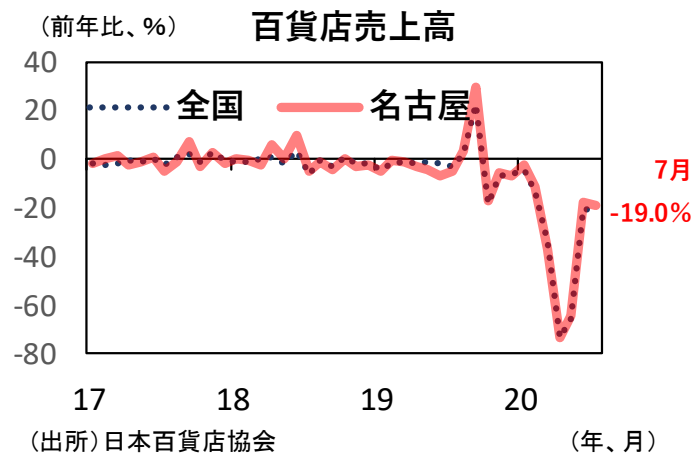
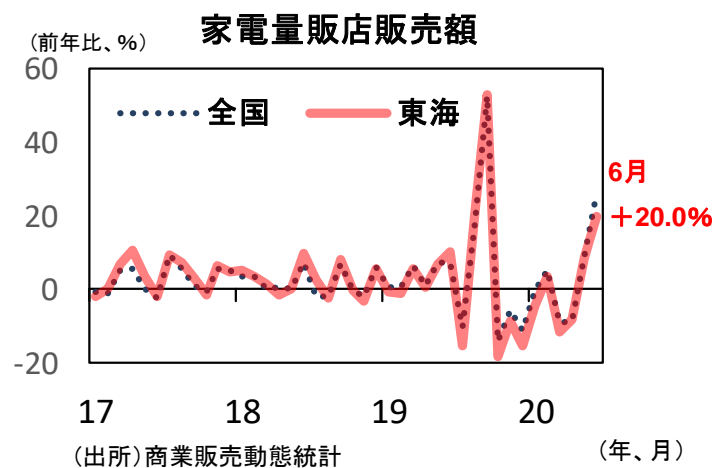
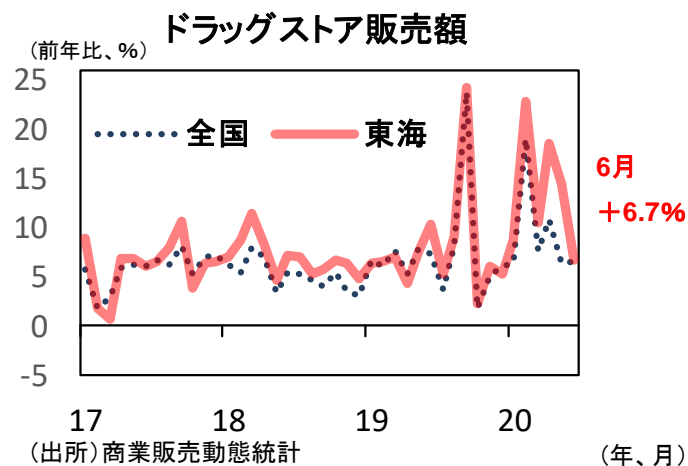
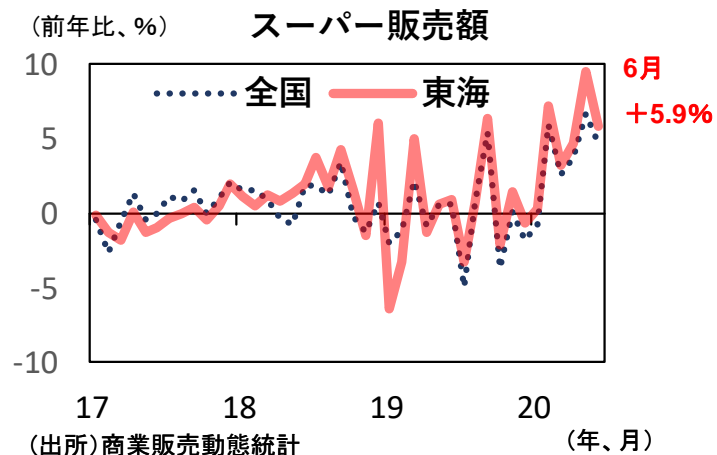


(出所)全国軽自動車協会連合会、日本自動車販売協会連合会よりMURC作成

個人消費(業態別)

6月は、家電販売が伸びを高めた。定額給付金支給が販売増に寄与した模様。

7月の百貨店販売は前年比-19.0%と大幅減が続く。長梅雨とコロナ再拡大による外出控えが影響した。

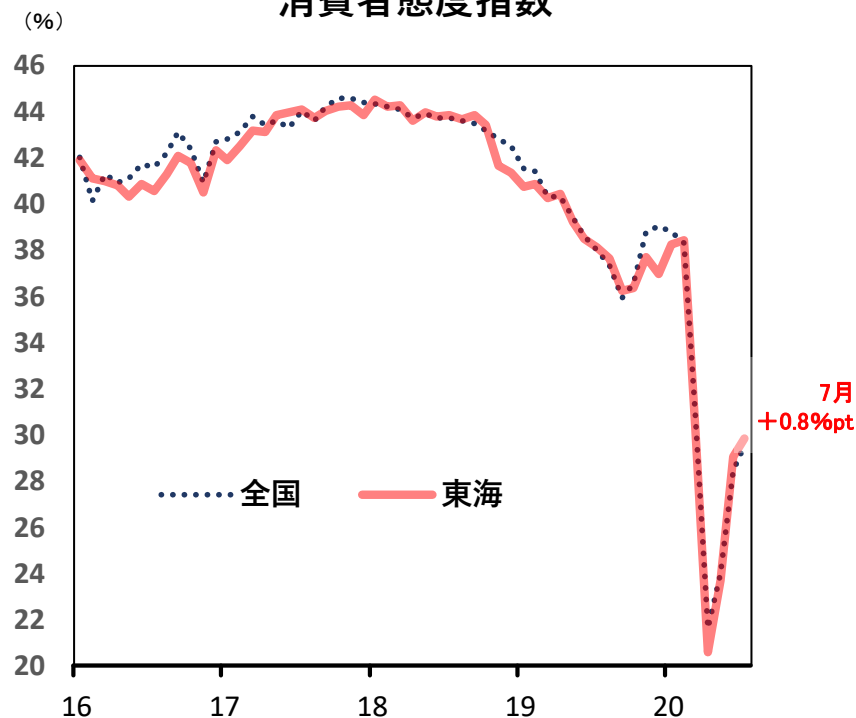


マインド・景況感

7月の消費者態度指数は29.8(前月差+0.8%pt)と、依然低水準ながら、緊急事態宣言の解除後、3ヶ月連続で改善した。

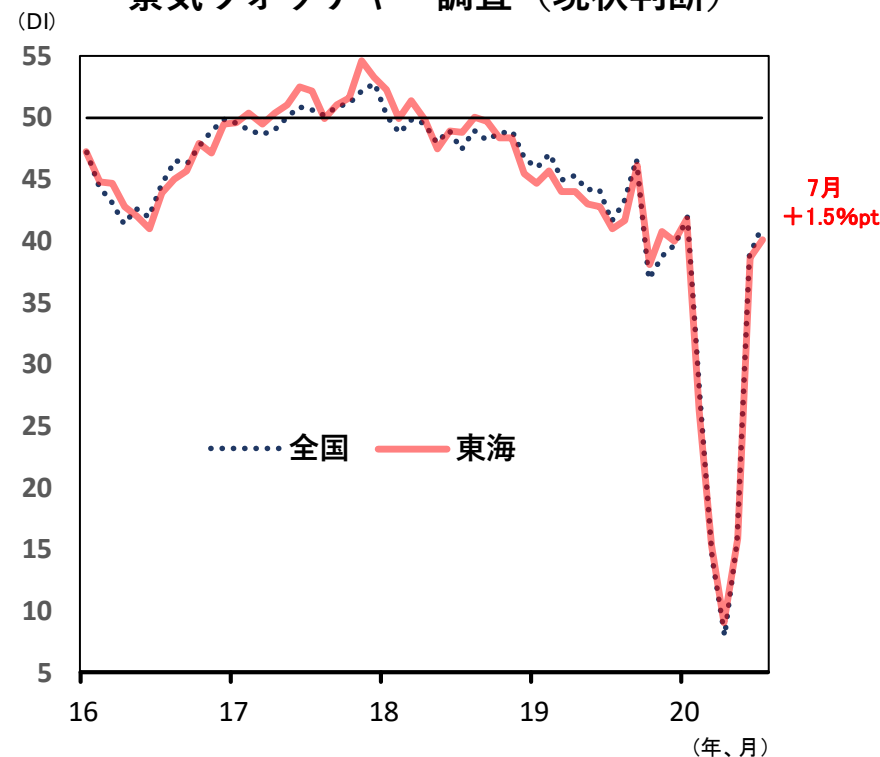
7月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は40.1(前月差+1.5%pt)と、概ね今年1月の水準まで回復したが、感染再拡大が影響し改善ペースは鈍化した。先行き(同-13.1%pt)については、感染再拡大への懸念から改善期待が低下した。

消費者態度指数



(注) 今後半年間の見通し：当社試算季節調整値 (年、月)
(出所) 内閣府「消費動向調査」

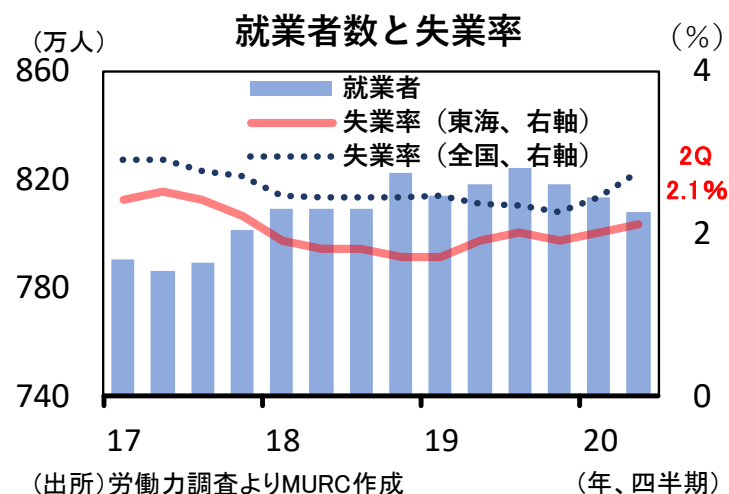
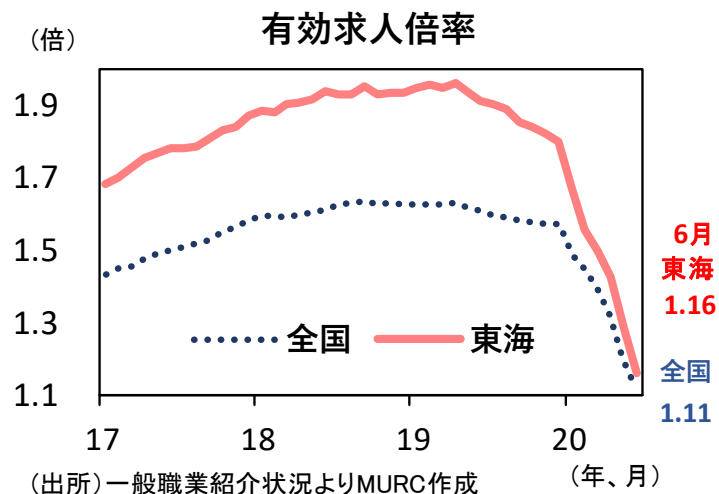
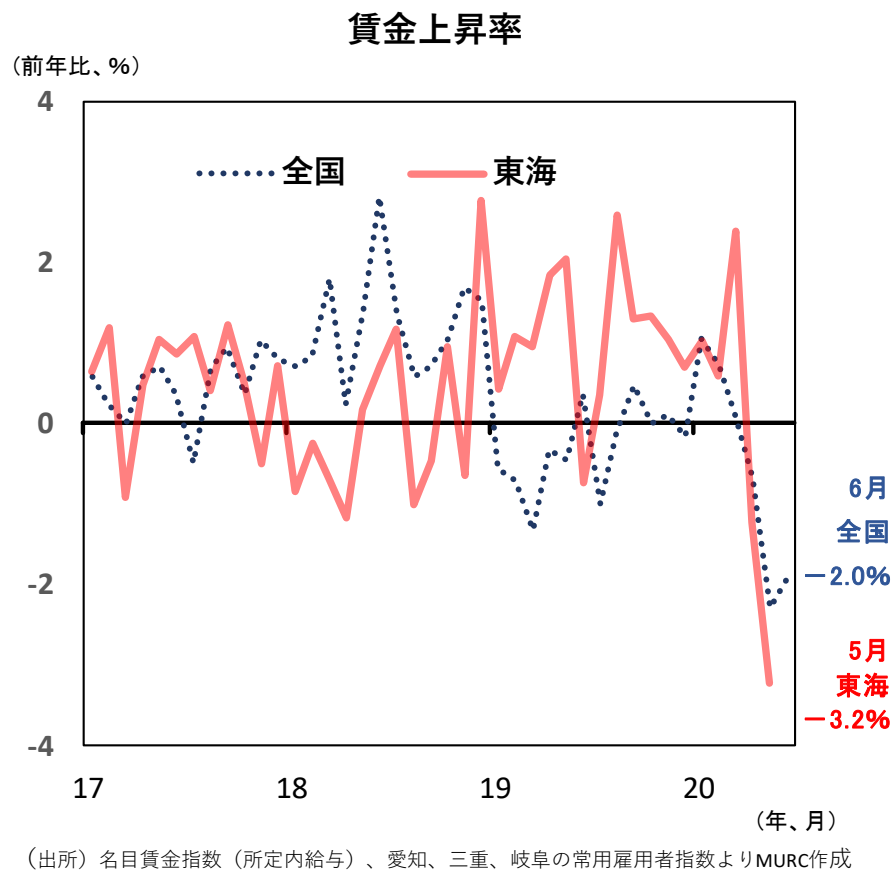
景気ウォッチャー調査 (現状判断)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

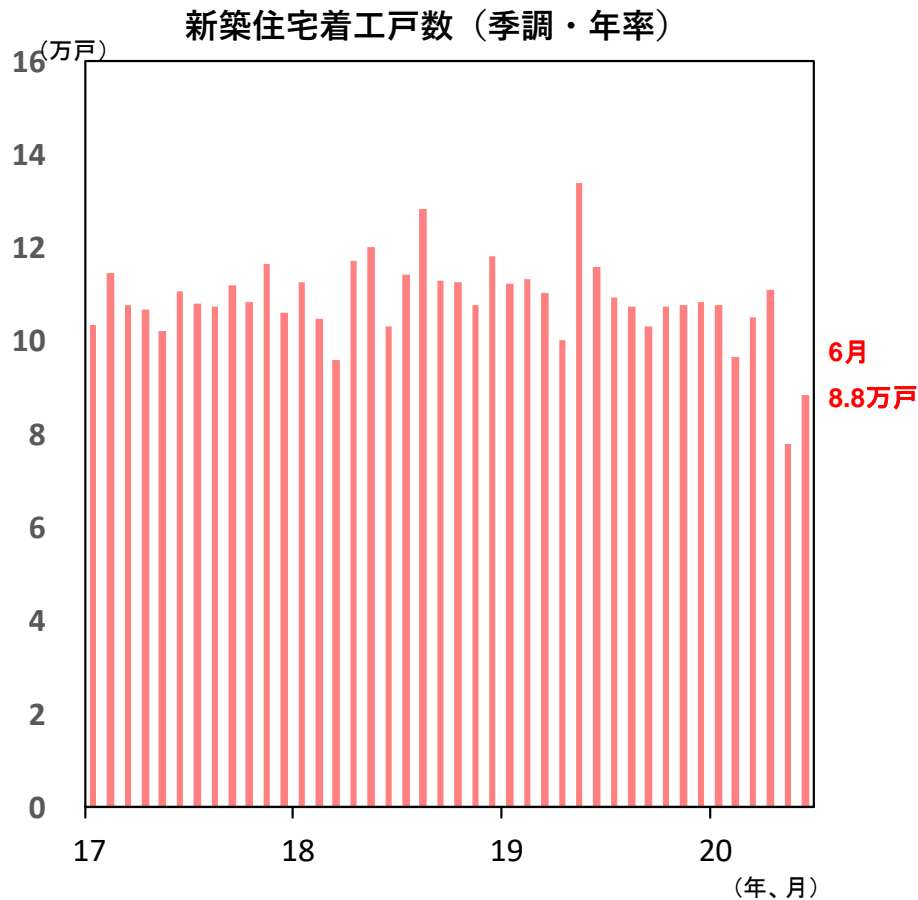
賃金・雇用

5月の名目賃金指数は、愛知県の製造業を中心に低迷し、前年比-3.2%と2ヶ月連続で低下した。6月の求人倍率は1倍超えながら低下基調。また、第2四半期の失業率は2.1%と小幅上昇。就業者数も減少した。

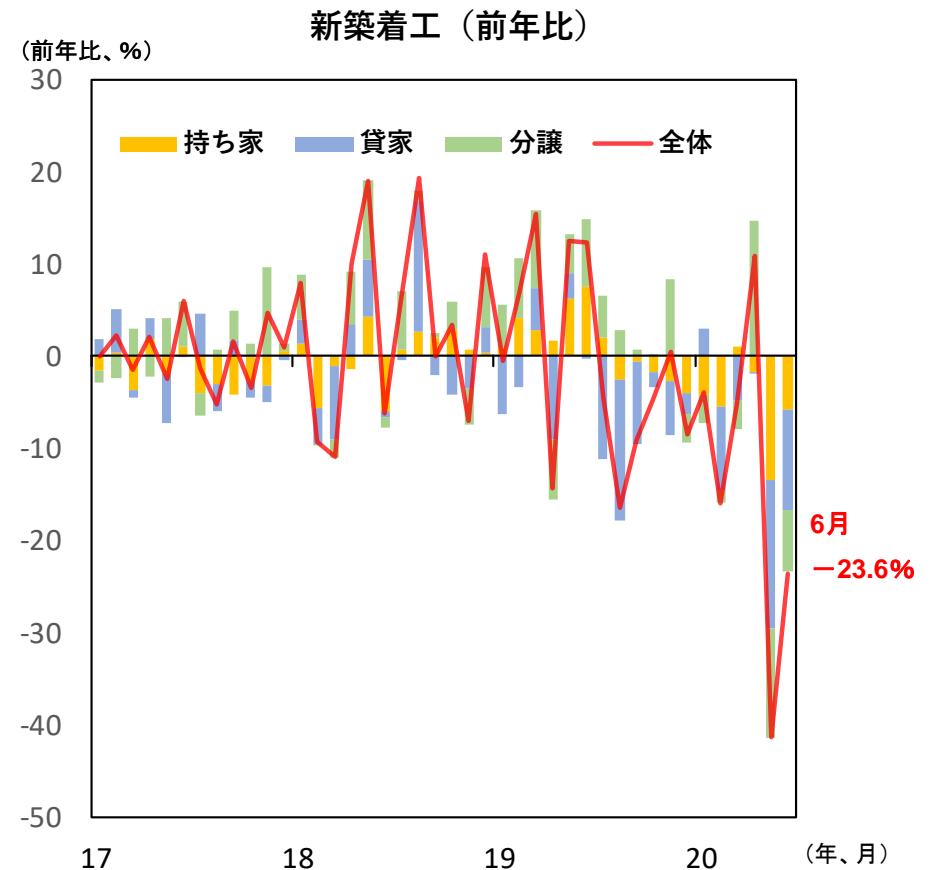


住宅投資

6月の住宅着工は季調・年率で8.8万戸と小幅増加したが、均してみると弱含み。原数値では前年比-23.6%と大幅減。持家、貸家、分譲、いずれも減少が続く。



(出所) 建築着工統計よりMURC作成



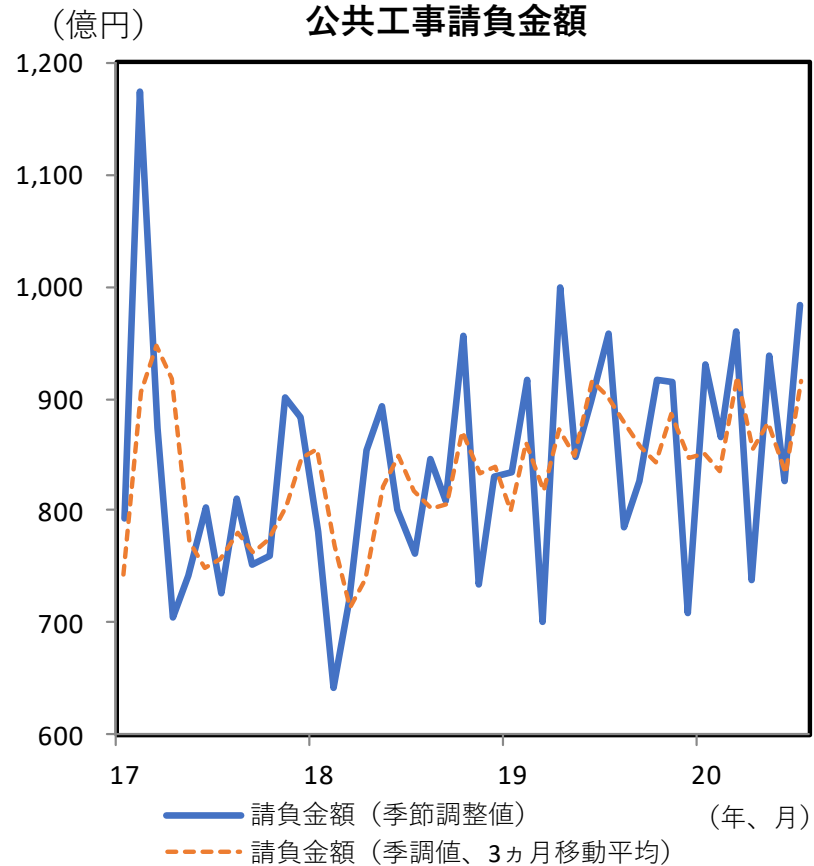
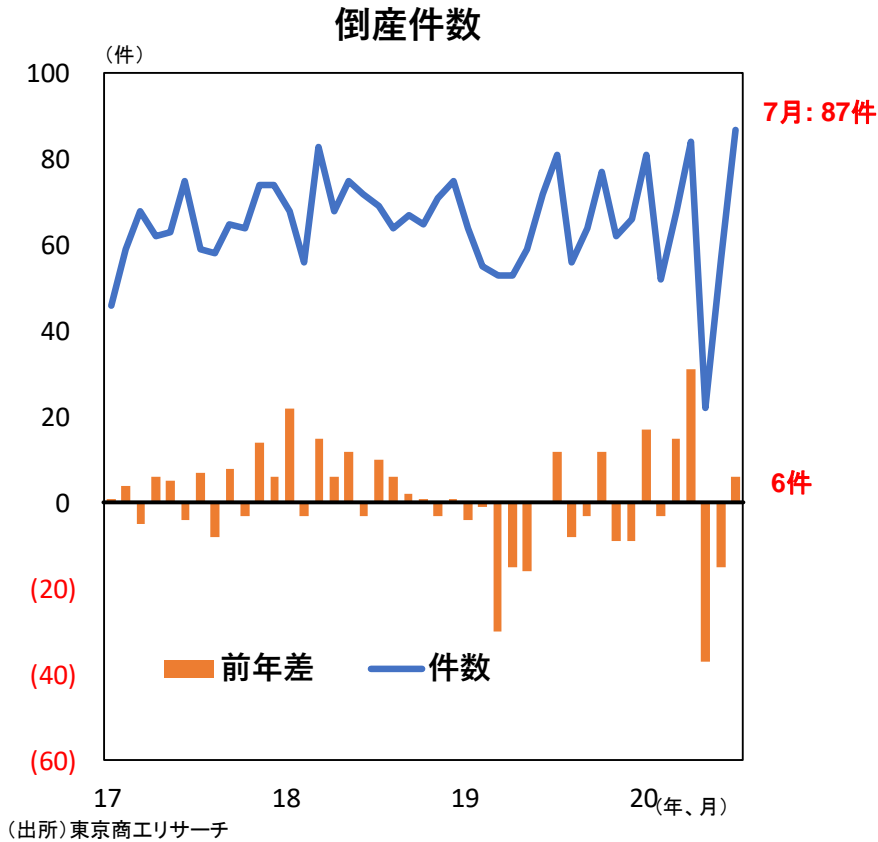
(注) 愛知、三重、岐阜、静岡の合計(出所)「建築着工統計」

倒産

倒産件数はコロナ下での裁判所業務縮小で、5月、6月と前年割れが続いていたが、7月は増加に転じた。

公共投資

公共投資は横ばい圏で推移している。



(注) 季調値はMURC試算

(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください